



オーストラリア キャンベラ

(オーストラリア国立植物園)

小笠原 智



The Australian National Botanic Gardens



ユーカリを背景にグラスツリーの植栽

海外に向くと仕事柄でしょうか、その国の植物園に自然と足が向いてしまいます。海外の植物園では、その国や地域の植物を自然の姿に近い状態で見ることが出来ます。前月号で紹介したキャンベラ郊外にあるチューリップ・トップガーデンからキャンベラ市内に戻ったところにあるオーストラリア国立植物園に行ってきました。

植物園は首都キャンベラの中心街から2.5kmのところ立地し、バスなら10分程度で行くことができます。ただしバスの本数は1日数本しかないので要注意です。今回の旅行でオーストラリアの植物園3か所行きましたが、どれも広大で、じっくり見ようとすると、とても数時間では回り切れません。



植物園の見どころを紹介するパネル

植物園は、植物の収集保存、保全、展示が主な業務ですが、教育も大切な仕事になります。この植物園は、訪れた人にわかりやすく解説をし、多くのパネルを表示して、その植物の面白さを理解することができるようになっています。



日本にも切り花で輸入されているバンクシャ

ボランティアガイドによる1時間程度の無料ガイドツアーや、有料ですが電動バスでの園内ツアーもあります。個人で歩き回っても、重要ポイントを見逃さずに園内を周遊できるコースがつくっており、路面に色のついた周遊コースを歩くと迷う心配もなく、回る事が出来ます。園内の道標や解説のパネルが充実し、入り口で園内マップをもらえば迷うことはありません。



イギリスの博物学者バンクス (1743-1820)

入口からすぐに、イギリスの博物学者バンクスの銅像が迎えてくれます。キャプテン・クックとともに南太平洋の植物の見聞を西歐にもたらした人です。日本にも輸入されるオーストラリアの固有植物・バンクシャの命名者でもあります。

オーストラリア特有の植物を観察でき、雨林小渓谷、ロックガーデン、ユーカリ園はそこで自生する植物の生きざまがよくわかるように演出されています。雨林小渓谷は木性シダや着生シダに覆われた小道が谷沿いにつくっており、木道の隙間からミストを噴出し、湿度を保つ環境と見学者への演出効果を作り出しています。



雨林小渓谷の木性シダ



ワラビーが出迎えてくれました。

オーストラリア固有の植物の一つ、グラスツリー (Xanthorrhoea) の雄大な姿 (左写真) は圧巻です。乾燥地の植物らしく葉は線状に伸び、ほかの生物を寄せ付けないようなオーラを感じました。周遊コースから少し外れて、植物園の森の中へ入る木道を歩いていたら、いきなりワラビーに出会いました。カンガルーを小さくしたような有袋類です。



アカシアの原種

ミモザの名前でヨーロッパなどに植栽されているアカシアの多くはオーストラリア原産の植物です。植物園だけでなく、郊外の道路沿いに植栽されたアカシアの黄色の並木は、春を象徴する景色です。



レッド・センター・ガーデン

オーストラリア大陸の中央部にレッド・センターと呼ばれる地域があります。赤く荒涼とした大地が広がっています。その地域を模して造られたレッド・センター・ガーデンには、その地域の植物や先住民アボリジニのアートも見る事が出来ます。日本では、コチアの名前でガーデンの寄せ植え素材として販売されているマイレアナもこの地域の植物です。

植物の原産地とその地域の環境を知ることは、園芸家にとって栽培のヒントを見つける事が出来ます。



コチア (マイレアナ)



(2018.10.4撮影)



コチョウランとオンシジュームの寄せ植え豪華ながらも品良くシックに仕上がった一鉢ならいつもより価格の高いお正月が迎えられそうです。 ¥15,000+税



松の樹形が引き立つ苔玉仕立て可愛らしいサイズ感なのでお部屋の場所も取らずに楽しんでいただけます。 ¥3,000+税



節祝のイメージが強いコチョウランを、現代風のお家でも飾りやすいおしゃれさとサイズ感に仕上げた当店オリジナルのランギャザリング。和モダンな陶器鉢で迎春の雰囲気にもぴったり一鉢に。 ¥10,000+税



「不老長寿の花」である菊と南天、松のアレンジメント。縁起の良さだけでなく洋風・和風どちらのインテリアにも映えるシックで和モダンな雰囲気もオススメのポイントです。 ¥4,000+税



迎春を彩る花々

1年が過ぎるのは本当にあっという間ですね。いよいよ年の瀬が押し迫って参りました。新しい年を迎える準備を始めていきましょう。
以前は、「正月事始め」と言われる12月13日から、門松やしめ縄の材料を集めはじめ、準備が出来次第飾っていたそうです。現在はクリスマス風の飾りつけをすることが普及していますので、クリスマスが終わってから正月飾りを準備していることが多いようです。

名古屋園芸では、皆様にお迎えいただけるよう、様々な花飾りのご提案をさせていただきます。ぜひ店頭でご覧くださいませ。

さて、正月飾りと言えは門松やしめ縄ですが、一緒に正月花も8日頃には飾るのが一般的です。正月花として代表的なものをいくつかご紹介いたします。
正月と聞いて真っ先に思い浮かぶのは「松竹梅」ですね。松、竹、梅はそれぞれ「長寿」、「子孫繁栄」、「出世」の象徴とされています。赤い実がたわわに実る南天は「難を転ずる」という意味合いで縁起が良く、千両や万両はその名の通り「金運」や「商売繁盛」を連想させます。「祝福」や「慈愛」などの花言葉を持つハボタンは、葉の色を紅白で合わせるとより縁起が良いです。見た目も華やかなバラは、「開花期間が長いことからも「長寿の花」とされています。
この他にも、水仙やユリ、ランなども正月花として人気があります。縁起が良いとされる花々がそれぞれどんな意味合いなのか、考えながら正月飾りの準備をするのもいいかもしれませんね。



お正月の景色を切り取ったような寄せ植え。可愛らしいミニサイズの松とヤブコウジの明るい斑入り模様の葉で、現代風のお家でも飾りやすい一鉢に仕上げました。 ¥5,000+税



吸い込まれるような深い色みと鮮やかさが目を惹くコチョウラン「マンテンコウ」。すっと伸びた花茎につく花びらは蝶のような可憐さです。 ¥15,000+税



華やかなコチョウランを使った特別感たっぷりアレンジメント。おめでたい新年を迎えるのにぴったりです。 ¥6,000+税



丸くて可愛らしいピンポンマムが目惹くアレンジメント。鮮やかなオレンジのストレチアは花の形が風車に似ている事から極楽鳥花とも呼ばれ迎春に相応しいお花です。 ¥5,000+税